

「平成29年度飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」受賞者の取組概要
-----------------------------------

## 【茨城県】

褒賞名	関東農政局長賞
受賞者名	<small>ヤマダ カズノリ</small> 山田 一則
所在地	茨城県常陸太田市
品種名及び作付面積	夢あおば：約3.6ha
10a当たり収量	754kg/10a
地域の平均単収からの増収	229kg/10a
取組内容	<p>○経営形態等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通作(水稲中心)7.5haと転作麦 3.5haの複合経営。この他に作業委託も約3ha。</li> </ul> <p>○多収品種への取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コシヒカリの収穫後、夢あおば収穫に入ることによって収穫時期をずらし、作業分散を図っている。</li> </ul> <p>○多収・コスト削減の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1箱 130gの薄播きを行い、中干し、間断灌水等の水管理も注意した。</li> <li>・夢あおばは分げつ数が少ないことから、株間を21cm(H28)から18cm(H29)に変更し株間を狭め、株数を確保。</li> <li>・豆つぶ除草(一発)、を使用し、コストと労力の削減を図っている。</li> </ul>

「平成29年度飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」受賞者の取組概要

【栃木県】

褒賞名	関東農政局長賞
受賞者名	アンノウ セイチ 安納 成一
所在地	栃木県宇都宮市
品種名及び作付面積	北陸193号：約3.8ha
10a当たり収量	764kg/10a
地域の平均単収からの増収	256kg/10a
取組内容	<p>○経営形態等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米、その他(自家用野菜・花木)の複合経営で経営面積は9.7ha(自家用野菜・果樹・花木 0.4ha含む)。</li> <li>・作付品種は主食用米(コシヒカリ)3.8ha、(とちぎの星)1.6haと飼料用米(北陸193号)3.8ha。</li> </ul> <p>○多収品種への取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縞葉枯病、倒伏性が強い多収性品種であること、近所の農業者が栽培し推薦された品種であるため、3年連続で作付けしている。</li> <li>・主食用米2品種(コシヒカリ・とちぎの星)と飼料用米(北陸193号)が定期的に連動して農作業を行える状況となった。</li> </ul> <p>○多収・コスト削減の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農研機構からの試験研究結果等の情報を参考に、田植え時期を5月20日までに行うよう取り組んだ。</li> <li>・基肥として、鶏ふん100kg/10aと石灰窒素20kg/10a及び高度一発55の使用により、コスト削減に努めた。</li> <li>・JAへの出荷にあたり、自家乾燥・調製によるフレコン出荷により、労力軽減(フォークリフト操作の1人作業も可)とコスト削減に努めた。</li> </ul>

「平成29年度飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」受賞者の取組概要

【群馬県】

褒賞名	関東農政局長賞
受賞者名	<small>ナガシマ ヨシオ</small> 永島 佳夫
所在地	群馬県邑楽郡板倉町
品種名及び作付面積	オオナリ：約7ha
10a当たり収量	686kg/10a
地域の平均単収からの増収	183kg/10a
取組内容	<p>○経営形態等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族経営（本人、妻、弟、期間雇用3名程度）により、水稻14.8ha（うち飼料用米7ha）、キャベツ5ha、ハウレンソウ0.5ha、ニガウリ0.3haの複合経営。</li> <li>・作付品種：あさひの夢7.5ha、コシヒカリ0.3ha、オオナリ7ha</li> </ul> <p>○多収品種への取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年に地元養豚農家との連携として飼料用米生産を始めた。</li> <li>・平成27年は北陸193号を、平成28年はもちだわらを作付けしたが、平成29年はより多収が見込まれるオオナリに品種転換した。</li> <li>・オオナリは草丈や稈の硬さ等性質が食用米品種と似ており、収穫のし易さも選定の一理由である。</li> </ul> <p>○多収・コスト削減の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、牛ふん堆肥を2t/10a程度散布して、地力の向上に努めている。</li> <li>・基肥を従来施用していたものに比べ、より肥効が期待できる水稻基肥一発肥料に変更。また、一発肥料を利用することで、追肥作業の省力化を図っている。</li> <li>・粃でのフレコン出荷を行い、調製作業の省力化・低コスト化を図っている。</li> </ul>

「平成29年度飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」受賞者の取組概要

【埼玉県】

褒賞名	関東農政局長賞
受賞者名	<small>アライ</small> 新井 <small>マサル ケント</small> 勝・健登
所在地	埼玉県熊谷市
品種名及び作付面積	夢あおば、タカナリ、オオナリ：7.2ha
10a当たり収量	621kg/10a
地域の平均単収からの増収	149kg/10a
取組内容	<p>○経営形態等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養豚(母豚120頭規模の繁殖肥育一貫経営)と水稻(7.3ha)の複合経営。</li> <li>・養豚部門を新井勝氏が、水稻部門は後継者の新井建登氏が担当し、飼料用米は7.2ha栽培。(平成30年産からは健登氏が、水稻部門を独立させて、経営を行う予定である。)</li> <li>・作付品種は夢あおば4.1ha、タカナリ2.7ha、オオナリ0.4ha。</li> </ul> <p>○多収品種への取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年度から飼料用米に取り組んでいる。国の飼料用米への支援が始まり、その制度を活用して飼料用米の地域内流通を構築し、耕種農家と畜産農家が受益を得られるように、普及指導員がマッチングしたことがきっかけである。</li> <li>・多収品種3品種を組み合わせて労力分散を図っており、当品種選択の理由は、「夢あおば」は倒伏しにくく、排水の悪いほ場でも、ほ場が乾くまで収穫を遅らせることができる、「タカナリ」は脱粒性はあるが多収である、「オオナリ」は脱粒性が少なく多収であるためである。</li> </ul> <p>○多収・コスト削減の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基肥は養豚経営で生産された豚糞堆肥を施肥(2t/10a)、追肥は養豚経営で出る尿を水田に投入(2~3t/10a(N 1kg/尿1t))している。肥料は経営内で出る豚糞・尿のみで化学肥料は使用していない。</li> <li>・移植は、密播と疎植栽培(坪当たり37~42株植え)により、生産費の低減を図っている。</li> <li>・飼料用米の給与は人工乳用で30%、子豚用飼料で20%、肥育後期用飼料で50%である。飼料全体の約3割が飼料用米であり、配合飼料価格が高止まりで推移している中、飼料代の削減にも貢献している。</li> </ul>

「平成29年度飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」受賞者の取組概要

【千葉県】

褒賞名	関東農政局長賞
受賞者名	高崎 諭
所在地	千葉県匝瑳市
品種名及び作付面積	アキヒカリ：約1.2ha
10a当たり収量	766kg/10a
地域の平均単収からの増収	193kg/10a
取組内容	<p>○経営形態等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水稲専作で経営面積は約4.6ha(飼料用米：アキヒカリ1.2ha、WCS用稲：夢あおば0.65ha、主食用米：ふさこがね1.16ha、コシヒカリ0.86ha、ミルキークイーン0.56ha)。</li> </ul> <p>○多収品種への取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉県の知事特認品種「アキヒカリ」での飼料用米の取組は4年目になる。それ以前は「ふさこがね」で取り組んでいた。</li> <li>・刈取時期に台風が重なってしまうことがあるが、アキヒカリは短稈で、遅くまで倒伏しないので、主食用品種を台風が来る前(倒伏前)に先に刈ることができ、作業を急がなくて良いという利点がある。</li> </ul> <p>○多収・コスト低削減の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田植えは50株/10aの設定で行い、苗箱を18枚/10aに減らし、播種から田植えまでの資材費及び労働費を低減。</li> <li>・施肥は元肥(窒素成分11.25kg/10a)に加え、穂肥を施用した。ほ場が基盤整備後のほ場で、土性が均一でないので、穂肥施用時には、生育の遅い所を中心に施用した。</li> <li>・多肥にするといもち病等の病害が発生しやすいので、空散をするなど、収量や品質の低下を防いだ。</li> </ul>

「平成29年度飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」受賞者の取組概要

【長野県】

褒賞名	関東農政局長賞
受賞者名	ヤマダ ヤスト 山田 恭土
所在地	長野県安曇野市
品種名及び作付面積	ふくおこし：約7.8ha
10a当たり収量	785kg/10a
地域の平均単収からの増収	136kg/10a
取組内容	<p>○経営形態等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営形態は個人。通常2名で作業、農繁期は臨時雇用を3～4名雇用。</li> <li>・全経営面積は27.6haで、この内水稲作付面積が19.76ha。</li> <li>・作付品種はふくおこし7.8haとコシヒカリ11.9ha。</li> </ul> <p>○多収品種への取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安曇野市内で既に取り組があり、省力化及び作期分散を図ることが出来る飼料用米に平成27年産から取り組んだ。作付品種は「ふくおこし」で平成27年産5.9ha、平成28年産5.9ha、平成29年産7.8ha。</li> </ul> <p>○多収・コスト削減の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田植期は主食用の田植え後の5月27日～6月10日、刈取りも主食用の刈取り後の10月14日～28日に実施し、作期分散と刈取り時の異品種の混入防止を図っている。また、天候にもよるが、飼料用米の刈取りを主食用の後に行うことによって、籾の水分が減少し、乾燥機の稼働時間が短縮され、電気代及び燃料代の削減にもなっている。</li> <li>・施肥は、稲わらを全量すき込むとともに、安価なオール14を使用し、施肥コストの削減に努めた。また、収量を確保するため、追肥を7月中旬と下旬、2回に分けて行った。</li> <li>・地域の担い手として主に賃借により農地の集積に取り組んでいる。作業の効率化のため、農地がまとまるように心がけ、団地化を図っている。</li> <li>・契約による価格維持及び流通経費の削減の面から、地元のあづみ農業協同組合に出荷し、全農長野県本部の畜産の飼料として長野県内に流通している。</li> </ul>